

北海道における建築用材の北海道産木材自給率の推計 ～ 2020年度の結果 ～

利用部 資源・システムグループ 前川洋平

研究の背景・目的

- 2019年度の北海道産木材自給率（パルプ用などを含む総供給量に占める割合）は60%でした。
- 「北海道森林づくり基本計画」では北海道産木材の利用拡大を掲げており、2031年度における製材・合板等の需要における北海道産木材の割合を75%という目標が設定されています。
- 本研究は、2020年度の北海道における「建築用材」の北海道産材自給率について推計しました。

研究の内容・成果

北海道産建築用材 = 北海道産原料を用いて北海道内で製造した製品

自給率推定式：

$$\text{北海道における建築用材の北海道産自給率（\%）} = A / (A+B+C+D) \times 100$$

- A：道産製品：北海道産原料による製品の北海道内出荷量（m³）
- B：準道産製品：輸入原料を北海道内で加工した製品の北海道内出荷量（m³）
- C：輸入製品：製品の北海道内輸入量（m³）
- D：移入製品：製品の北海道内移入量（m³）

※推計には各種統計資料や北海道水産林務部林務局林業木材課に提供戴いた資料を用いました。

研究の内容・成果

- 2020年度の北海道における建築用材の総需要は906千m³と推計しました（図1）。このうち北海道産製品は、合計144千m³となり、北海道における建築用材の北海道産材自給率は15.9%であると推計しました。
- 過去の結果と比較すると、自給率は低下していることが判明しました（図2）。

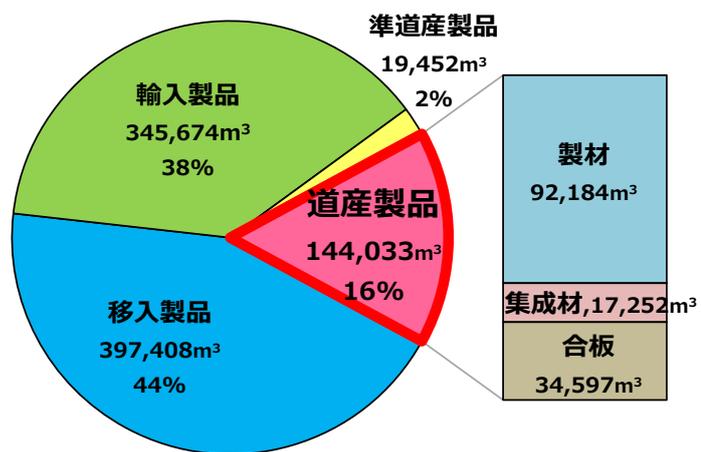


図1 建築用材の産地別供給量（2020年）

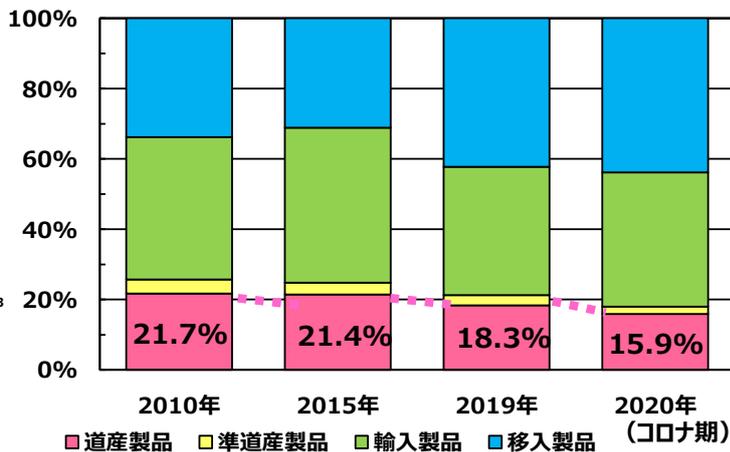


図2 建築用材の道産製品の自給率

- 北海道における2020年度の**新設住宅着工戸数**は31,772戸でした。2015年度（34,329戸）よりは減少しているものの、2010年度（29,922戸）よりは多く、2020年度が特異な年であったとはいえません。
- **建築用材の総供給量**を比較すると、2010年度は793千m³、2015年度は766千m³、2019年度は889千m³、2020年度は906千m³であり、むしろ2020年度が最も多くなっています。
- **自給率の減少要因**として、建築用材の**北海道産と道外産との価格競争力の差**が考えられます（例えばCOVID-19により経済活動が停滞し、在庫処分が必要となったが、道外産は値下げが可能だった）。

今後の展開

北海道産材の建築用材について、生産コストの低減を図る**規模拡大**や工場間の**連携型事業**への展開を促す施策が必要と考えています。